

交人知愛

登米市耕人塾
塾長のつばやき
第3期 第5号
令和5年11月1日
文責 千葉和彦

～ 冒険することの重要性～ 体験が大きな感動を生む力となる



10月25日に登米耕人塾第4回研修会があり、船木實先生を講師としてお招きしました。船木先生は南極観測隊として13回も南極大陸越冬隊員に加わって南極の地質を研究しました。その後、国立極地研究所に准教授として勤務しました。

登米中学校に入学して理科の先生で武田隆彦先生と出会い、自分の人生が大きく広がりました。船木先生は中学2年生のときに自家製の天体望遠鏡を作りました。自宅で星の観測をしたり、宇宙のちりを集めることに興味を持ち、そのうち隕石が津山町横山地区に落ちた記事を知り、天体に興味を持つようになったそうです。

登米高校でもその研究を続け、秋田大学鉱山学部へと進学し、地質学を専門的に研究しました。大学時代にいかだをつくり、北上川源流から追波湾まで数年かけて川下りに挑戦したりと、冒険することの重要性に気がついたようです。

体験が大きな感動を生み、自分の意思と力でやりたいことを積極的に実行する大切さを熱く語ってくれました。

また、人がやったことをやるのではなく、人がやらないことに挑戦し、失敗してそこから学ぶことこそ「若さの特権」と話してくれました。

教科書で学ぶ天体や気象の知識も大切ですが、船木先生のような方のお話は本当に興味をそそってくれます。

くわしいことは、まちなびちゃんねる YouTube <http://youtu.be/bfTUAorU8aA> をご覧下さい。